


2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 潮来市立潮来第二中学校 】

1 実践テーマ	I ・ III ・ IV
2 実施対象者 (学年・人数)	潮来市立潮来第二中学校 全校生徒163名 第1学年59名 第2学年55名 第3学年49名 保護者約20名 教育関係者3名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (学級活動, 道徳, 総合的な学習時間)</p> <p>② 行事名 (年中夢求プロジェクト)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目 標 (ねらい)	<p>○ オリンピック・パラリンピックの特徴や発展について学び、あきらめないことの大切さや、限界に挑戦することの尊さ、工夫をすればできることが増えるという心を育む。</p> <p>○ オリンピアン・パラリンピアンとの交流を通して、夢をもつことには、困難を乗り越えることができたり、大きな喜びを感じることができたり、人の心を揺さぶることができたりするといった大きな力があることを理解するとともに、自身の夢を育む。</p> <p>○ パラリンピック大会の目的である共生社会の構築、「誰もが受け入れられる社会をつくるにはどうすればよいか、自分たちに何ができるのか」について考えるきっかけとする。</p>
5 取組内容	<p>1 年中夢求プロジェクトの実施について生徒へ周知</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本校の目指す生徒像 「夢に向かって志を立てて頑張れる生徒」</p> </div> <p>5月の生徒総会の時に、校長より目指す生徒像が発表され、生徒会からは生徒会スローガン「錦上添花～今までのよき伝統の上にさらにより伝統を～」という趣旨が発表された。ここから、夢を追いか求める「年中夢求プロジェクト」がスタートした。</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>校訓 たくましく前進</p> <p>目指す生徒像 夢に向かって志を立てて 頑張れる生徒</p>  </div>

2 事前学習資料「I'm POSSIBLE」を活用した学級活動・道徳
事前学習として、各学級で「I'm POSSIBLE」を活用した授業を実施した。オリンピック・パラリンピックの特徴や発展について学び、あきらめないことの大切さや、限界に挑戦することの尊さ、工夫すればできることが増えることの基礎を学んだ。



3 学級活動による「ボッチャ体験」「シッティングバレーの体験」
学級活動や道徳の授業で学んだ内容を基に、「ボッチャ体験」や「シッティングバレー体験」を行い、実際の活動を通して、今までの学習と体験を結びつける活動を行った。生徒は楽しみながら、誰もが活動できるためのルールや工夫点を学び、共生社会についての礎を養うことができた。



4 パラリンピアンによる講話
元車いすラグビー日本代表で現コーチの三阪洋行氏に「パラスポーツの可能性～パラリンピックが教えてくれたこと～」の演題で講演をいただいた。
講演では「夢をもって行動することの意味を伝えたい。」という三阪選手の強い思いを伝えていただいた。



「夢持ち、前向きに」

車いすラグビー元日本代表



車いすラグビーのタックルを披露する三阪洋行氏－潮来二中

潮来二中で 迫力タックル披露

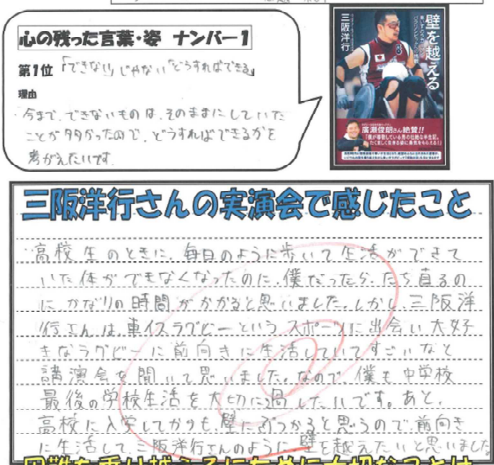
車いすラグビーの日本代表三阪洋行氏（38）が4日、潮来市立潮来二中（新松格一校長）を訪れ、「パラスポーツの可能性～パラリンピックが教えてくれたこと～」と題して講演し、「夢を持ち、前向きになれる」と語った。

三阪氏は大阪出身、高校時代にラグビーの部活動中に難病の大けがを負い、車いす生活になった。8カ月及び入院生活後、車いすラグビーと出会い、2004年のアテネパラ五輪から3大会連続でパラ五輪のフリースタイルコート選手を務めている。

講演では、車いすラグビーの試合について「明瞭に、工夫し続ける」と語り、

「三阪氏は、目を凝らすと、たとえそれがかわなくても進む力が生まれることがある。最初の壁から新たな壁ができることを挫折と捉えずに、夢を持って行動する意味を学ばれたらいい」と話していた。

（川本明）

	<p>5 各学級における推進プロジェクト事後学習</p> <p>どの活動においても振り返りの活動を重視した。振り返りカードに自分自身の気持ちが表現しやすいように工夫するだけではなく、今後の日常生活にどのように繋げていくかを大切にするようにした。また、カードは全教室後方の個人フォルダに掲示し、級友と共有できるようにした。</p> <div data-bbox="906 197 1401 660">  <p>心の残った言葉・姿 ナンバー1</p> <p>第1位 「でんぱり」じゃないでうればでんぱり</p> <p>理由 ・今まで、でんぱりという言葉を聞いて、その言葉にしていたことがなかったので、どうすればでんぱりになれるかという目標を立てた。</p> <p>三阪洋行さんの講演会で感じたこと</p> <p>高校生のときに、毎日のように歩いて生活ができていた。体が大きくなったのに、僕が思ったように走ることができなかった。三阪洋行さんは、車イスラグビーというスポーツに出会い、大勢の選手と一緒に練習して、生活が楽しくなりました。講演会を聞いて、私もラグビーをやってみたいと思いました。最後の学校生活を大切にしたいと思います。あと、高校に入塾してからも、毎日走りたいと思います。三阪洋行さんのように、一生懸命に頑張りたいです。</p> </div>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段はメディアの中の一流の著名人にふれることで、一流と呼ばれる方々の「生き方」のエッセンスを知ることができた。 ・講演会等での「夢を大切にし、あきらめずに努力すること、出会いとターニングポイントのエピソード」は中学生を感化させ、夢や目標へ向かわせるエネルギーを与えるには十分であった。 ・講演会等だけではなく、学級活動や道徳の授業、校内環境の整備など「目に見えるものだけではない効果」をもたらすことを実感することができた。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の組織目標や目指す生徒像を意識し、具現化する活動とリンクした内容にした。 ・オリンピック・パラリンピックをどちらも取り上げることで事業の目標を達成できる内容にした。 ・事前学習・事後学習を取り入れ、一過性のプロジェクトでなく、年間を通した取組になるようにした。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一過性のプロジェクトにならないように工夫したつもりであったが、どちらかという教師主体の活動になってしまっていた。計画や実働をできるだけ生徒が主導できるようになれば、さらに生徒にとって意味深い活動になると考える。 ・保護者や地域にさらに周知することで、この活動に深みや広がりをもたせられると思う。深みや広がりが一過性のプロジェクトにならない機会や印象を深めるチャンスになると考える。広報活動や事前準備などPTAや地域施設などとも協働することは非常に有意義になると思う。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>2020東京オリンピック・パラリンピックの開催を通して、今回学習した内容をベースとし、関連する学習内容とリンクしていく。</p>